

**Q 1 : 学習評価の工夫・改善や、妥当性・信頼性の高い評価を実施するためには、どのようなことに留意すればよいですか。**

新学習指導要領に基づく学習評価

これまで指導と評価の一体化が推進されてきており、学習指導に係るPDCAサイクルの中で、学習評価を通じて学習指導の改善を図ることが重要です。なお、新学習指導要領に基づく学習評価の基本的な考え方や観点、変更点等については、本書P.39を参考にしてください。

評価方法の工夫

はじめに、評価方法についてですが、できるだけ多様な評価を行い、多くの情報を得ることが重要です。しかし、そうすることで評価に追われてしまえば、十分に指導できなくなるおそれがあります。そこで、例えば、ノート等への記述内容は、「知識・理解」の評価だけでなく「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」の評価にも活用することが可能なので、児童生徒の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用することが考えられます。



**多様な評価方法**

観察、児童生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接、児童生徒による自己評価、児童生徒同士による相互評価等

各教科等の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や児童生徒の発達の段階に応じて選択する

評価

評価時期等の工夫

次に、評価の時期についてです。年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元において、観点別学習状況の評価に係る適切な時期や方法を観点ごとに整理するとよいでしょう。こうすることにより、評価すべき点を見落とししていないかを確認でき、必要以上に評価の機会を設けたり、評価資料の収集や分析に多くの時間を要したりすることを防ぎます。

評価時期についての留意点

- \* 一単位時間ごとの評価を累積していく。
- \* 単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において、「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価する。
- \* 「関心・意欲・態度」については、表面的な状況のみに着目することにならないよう留意するとともに、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行う。

効果的・効率的な評価

また、効果的・効率的な評価を進めていくことも大切です。ある単元において、あまりにも多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことも十分できなくなってしまうことも考えられます。そこで、効果的・効率的な評価を進めるうえで以下のことに配慮しましょう。

効果的・効率的な評価のための配慮点

- \* 評価結果を記録する機会を過度に設定することのないよう、1単元内で各観点をバランスよく配置するとともに、学習活動ごとの評価の重点化を図り、1単位時間当たり1つから2つ程度の評価規準となるように指導と評価の計画を立てる。
- \* ノートやレポート、ワークシート、作品など、授業後に教師が確認しながら評価が行えるような方法と、授業中に見取りを適切に組み合わせ、全員の学習状況を適切に見取りつつ、それぞれの児童生徒の特性にも配慮した評価方法を採用する。

妥当性・信頼性の高い評価の実施と創意工夫

さらには、妥当性・信頼性の高い学習評価の実施が求められます。（ここでいう学習評価の「妥当性」とは、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであること。）妥当性・信頼性の高い評価を実施するための留意点として、次のようなことが挙げられます。

妥当性・信頼性を高めるための留意点

- ・ 指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定したり、評価方法を工夫したりする。
- ・ 評価の観点で示される資質や能力等を評価するのにふさわしい評価方法を選択する。
- ・ 評価方法を評価規準と組み合わせ設定することが必要であり、評価規準と対応するような評価方法を準備する。



各学校は、学習評価の工夫・改善に努め、保護者等への説明責任を果たすとともに、妥当性・信頼性の高い評価の実施など、創意工夫していくことが大切です。